

## 10. 応急手当



- さまざまな場面を想定して、支援者間であらかじめ役割分担をしておきましょう。
  - ① 手当をする係
  - ② 連絡係
  - ③ 他の子どもをけが人や急病人から遠ざける係
- 応急手当をする際には、子どもに声をかけて励まし、安心させてやりましょう。
- 必要に応じて医療機関へ連れて行きましょう。
- 緊急時には救急車を利用することも検討しましょう。

### すりきず・きりきず・さしきず

- ① 傷口に泥などの汚れがついている場合は、まず水道水やペットボトルの水などでよく洗い流す。  
→ 毛先のやわらかい歯ブラシなどを使うと洗いやすい。
- ② 消毒液で消毒する。  
→ 消毒液は、傷口の状態がわかりやすい、無色透明のものが望ましい。
- ③ 傷口を絆創膏やガーゼで保護する。

※出血が多い場合は、傷口を清潔なガーゼや三角巾などで強く押さえて止血をし、すぐに医療機関へ連れて行きましょう。

### 危険植物による被害

- ・かぶれは、素早く大量の水道水やペットボトルの水などでよく洗い、抗ヒスタミン剤軟膏や副腎皮質ホルモン軟膏を塗っておく。
- ・トゲは、刺さったものを毛抜きなどで取り除き、水道水やペットボトルの水などで洗い流す。

### 危険動物による被害

#### 【毒ヘビ】

- ① 動き廻ると体内への毒の拡散が早くなるので、まずは被害者を安静にさせる。
- ② 速やかにボイズンリムーバーなどで毒を吸い出す。  
→ 口で吸い出す方法は、口の中の傷から毒が回る場合があるのでなるべく避ける。
- ③ かまれたところより心臓に近い部分に止血帯を巻き、病院に運ぶ。  
→ 静脈が浮き上がる程度の強さで巻く。

## 【ハチ】

- ①すぐに現場や巣から遠ざかる。
- ②針が残っている場合は、速やかに根本から毛抜きや爪などでそっと抜く。  
→針についている毒液の入った袋をつまむと、針の中の毒をさらに注入することがあるので注意する。
- ③刺された部分をつまんで毒を押し出す。  
→口で吸い出す方法は、口の中の傷から毒が回る場合があるのでなるべく避ける。
- ④毒液は水に溶けやすい性質があるので、傷口を水道水やペットボトルの水などでつまむようにして洗い流す。
- ⑤患部をよく冷やす。
- ⑥虫刺され薬や、抗ヒスタミン軟膏か副腎皮質ホルモン軟膏があれば塗っておく。  
→刺されてから20分ほどしても異常がないようなら、ひとまず安心と考えられる。



## 【毛虫やドクガ】

- ①粘着テープなどを当てて毛針を抜くか、流水で洗う。  
→ごしごし洗うと毒毛を皮膚の中に押し込むので、軽く触れる程度に洗う
- ②抗ヒスタミン剤軟膏や副腎皮質ホルモン軟膏があれば塗り、患部を冷やす。

## 熱中症 … 日射病、熱射病

- ①木陰など、涼しく風通しのよいところに寝かせ、衣服をゆるめて身体を冷やす。  
顔色が赤いとき → 頭を高くして寝かせる。(頭にのぼった血を下げる)  
顔色が青白いとき(貧血) → 頭を低くして寝かせる。
- ②体温が下がったら、薄い食塩水やスポーツドリンクを飲ませる。

